

# 19年04月世界市場サマリー

株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ  
代表 伊藤 武

世界市場の流れには4月中も大きな変化が見られませんでした。相変わらず米国市場中心の相場展開となり、他の全ての市場は追随している形をとっています。米国S&P500種指数及びNASDAQ指数は史上最高値を更新しました。それも穏やかな上昇に留まり、2進1退の値動きとなっています。2019年米国第1四半期のGDPは予想を上回る3%台の上昇を遂げました。政府機関一部の閉鎖等の要因で在庫積み増しがGDP増加に寄与しました。それであっても予想された景気の減速とはならず、米国経済の安定した基調が保たれています。企業収益も同様に推移し、既に発表済み企業決算の7～8割が予想を上回っています。米国を代表するITトップの銘柄GAFAの決算発表はまちまちで、グーグルの減益およびアップルの増益は意表を突き明暗が分かれています。5月に入り米連銀FRBは金融姿勢を現状維持とし、それに対し一部失望売りが生じています。金融を緩和に転ずる期待が生じていたのですが、景気の強さを認めたFRBの判断となりました。

トランプ大統領にとって来年2期目の選挙のみが眼中のあるようで、今まで以上に選挙基盤の強化を狙っています。移民政策、関税、経済等いずれも強硬策を訴えています。連銀の姿勢を批判し、今後の理事任命も自分の意に叶う露骨な人事を狙っています。既にトランプ大統領が指名した2人の候補は資格なしと辞退せざるを得なくなった有様です。ロシア疑惑の調査結果も、当初発表のロシアとの共謀無しの要約に対し、モラー特別調査官本人が異議を唱え、民主党議会はトランプ大統領追及を諦めていません。政治の対立は悪化するばかりとなっています。

日本は平成から令和の時代に移行し、能天気にも10日間の連続休暇となりました。日本市場や為替市場での波乱が懸念されました。令和ムードに浮かれ、懸念はあったものの、それは事なきに通過した模様です。4月の為替市場は概ね変わらずとなり、ダウ平均は2.5%、日経平均は5.0%上昇しました。当面の市場は現在の延長線にあると思われます。

本資料は、株式会社LOGOSキャピタルパートナーズ（以下「当社」という）が情報の提供のみを目的として作成したものです。当社が提供する情報は十分信頼に足るものと信じておりますが、それを保証するものではありません。ここに掲げる過去の実績は必ずしも将来の動向を示唆するものでなく、実際の収益を確約するものではありません。記載された見解等の内容は全て作成時点でのものであり、今後予告なく変更されることがあります。この資料及びここに掲載された情報等の権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部若しくは一部を複製し、又その他の方法で配布することはご遠慮ください。